

守られる中学生から守る中学生へ

## 福地中学校 総合防災訓練

5月27日、福地中学校で全校生徒が参加して総合防災訓練が行われました。地震発生の訓練放送が流れると机の下に隠れ、先生の指示で校庭へ避難。どの生徒も素早く、落ち着いて行動していました。その後、救助、施設管理、衛生、食料物資などの班に分かれ、テントや仮設トイレの設営、非常食の準備、応急担架やAEDを使う練習などを行いました。生徒たちは、大人に守られる中学生から、お年寄りや小さい子を守る中学生になることを目指し、訓練を通じて防災の意識を高めていました。



親から大切に育てられたことを再認識

## 赤ちゃんふれあい体験授業

赤ちゃんふれあい体験授業が5月24日から6日間にわたって吉良中学校で行われました。子育ての喜びや命の尊さなどを学び、自分が親から大切に育てられたことを再認識するため、2年生237人が体験。参加したお母さんから赤ちゃんの名前や特徴を紹介された後、一人ずつ赤ちゃんの重みを感じながら優しく抱っこしたり、あやしたりしました。初めての体験で硬い表情をしていた生徒たちも、赤ちゃんのかわいいしぐさを見るうちに頬が緩んでいました。



うなぎ丼・蒲焼きに大行列

## 三河一色みなとまつり2016



三河一色みなとまつり2016が5月28日・29日の両日、一色さかな広場特設会場で開催されました。うなぎの蒲焼きの香りが漂う中、うなぎ丼の販売には大行列ができていました。大人気のうなぎつかみ体験にはたくさんの小学生が挑戦し、ヌルヌル逃げるうなぎを捕まえようと必死に追いかけていました。その他にステージイベントやうなぎ蒲焼き体験、えびせんべい手焼き体験、あさり汁・特産品の販売などが行われ、来場者は見て、食べて楽しんでいました。

佐久島の海をもっと豊かにしよう！

## 佐久島アマモ移植ボランティア



魚が住みやすい藻場を広げるためのアマモ移植ボランティアが、6月4日に佐久島の大浦海水浴場周辺で行われました。島の中学生が始めたアマモの調査・再生活動は、今年で15年目。作業工程の説明を受けた参加者は、アマモを麻ポットに入れて干潟に移植しました。子どもを含む多くのボランティアと島民が力を合わせて作業を進め、気持ちの良い汗を流していました。作業終了後には、参加者全員であさりの味噌汁を堪能し、佐久島の海を楽しみました。



将来の夢や希望を胸に

## 幡豆中学校生徒 職場体験

幡豆中学校2年生105人が5月25日～27日に、小学校や保育園、事業所など34か所の施設で職場体験を行いました。働く体験を通して、地域で働く人の仕事に対する思いにふれ、自分の将来の夢や希望について考えることを目的として毎年行われているものです。消防本部では10人の生徒が、レンジャー体験や放水訓練、AEDを用いた普通救命などに意欲的に取り組み、職業観を育んでいました。



国重要文化財

## 幡頭神社本殿工事現場見学会



5月29日、幡頭神社本殿工事見学会が行われました。幡頭神社は三河湾に突き出た岬の先端に築かれており、宮崎という地名の由来になっています。大宝2(702)年の創建と伝えられ、平安時代初期に編集された「延喜式」に記載がみられる式内社です。市内にある式内社は久麻久神社と幡頭神社のみで由緒のある神社です。この本殿は天正8(1580)年の建築と伝えられ、国の重要文化財に指定されています。今回は26年ぶりの<sup>ひだまり</sup>檜皮葺の屋根のふき替えとなり、見学者は作業を注意深く見守っていました。

丁寧に新芽を摘み取る

## 市内7小中学校で学校茶摘み

本格的な新茶の茶摘みシーズンを迎え、5月16日から市内の小中学生による学校茶摘みが行われました。地場産業に対する理解を深めてもらおうと、勤労体験学習として長年続く行事で、今年も旧西尾市の6つの中学校生徒と西野町小学校の4年生以上の児童、約3,500人が参加。西野町地区などに広がる茶園で、それぞれ1～2日間体験しました。西尾中学校生徒は5月23日・24日の2日間にわたり、真剣に取り組み、柔らかな新芽を丁寧に摘み取っていました。



矢作古川流域の水害を低減

## 矢作古川分派施設完成式典



国が25年度から志貴野町地内で建設を進めてきた矢作古川分派施設の完成式典が、5月28日に行われました。矢作古川流域は河床勾配が緩やかで、広田川などの支川も多い上に、矢作川からの流入量の影響を受ける水害常襲地帯。高さ15.8m・幅66.5mに及ぶ分派施設の完成により、流域の治水安全度は大きく向上し、洪水被害の低減が期待されています。式典ではくす玉の開披やアトラクションなどが行われ、待望の完成を祝いました。